

「ゲレンデ逆走マラソン」が ふるさとイベント大賞の最優秀賞に輝く



4_大会の応援ソング「切り切るまで振り向くな」を熱唱する「福島で歌うたい」ave(エイヴ)さん 5_高地レースとなる箕輪スキー場でのレース。スタート地点の標高は約1,050m。過酷なコースにもかかわらず、参加者には笑顔が浮かぶ 6_イベントを盛り上げるタレントのなすびさん(右) 7_フリースタイルスキー世界選手権大会モーグル競技の舞台ともなった急坂を登るリステルスキーファンタジアのレース 8_沼尻スキー場で開催された「ゲレンデ逆走駅伝」。夏休みに開催されたため、家族連れや小中学生も多数参加した



1_ゲレンデの頂上を目指して勢いよくスタートする選手たち(猪苗代リゾートスキー場) 2_東京都内で開かれたふるさとイベント大賞表彰式 3_前後町長に受賞を報告した佐藤事務局長(左)と樋口委員(右)

猪苗代の魅力を発信したい



GAMBARUZO!ふくしま実行委員会
事務局長 佐藤 勇一さん
ホテルリステル猪苗代 総支配人

震災後、何とか元の福島に戻したい、この地域に全国からお客さんをお呼びしたいという思いからGAMBARUZO!ふくしま実行委員会を立ち上げました。原発事故の風評被害の影響が大きく、地域全体が困っていたので、町内にある六つのスキー場が手を組んで開催したほうがより発信力の強いものになると思います。観光協会のスキー場部会にこの企画を提案しました。するとスキー場部会長の樋口弘明さんから「やりましょう」と承諾をいただきました。開催1年目は、1レース当たり30人程度だった参加者数が、3年目頃から100人以上に増え、参加者の口コミなどもあり昨シーズンは6レースで延べ1750人がエントリーしました。

ゲレンデ逆走マラソンは、どの

レースもとてもきついコースになりますが、レース中は選手同士が励まし合いながらゴールを目指しています。参加者からは「友達ができるマラソン」と言われるようになりました。私たちがより良い大会にしようと、毎回アンケート調査を行い、選手の声聞いています。選手の見聞を取り入れながらイベント運営に反映させてきました。ゲレンデ逆走マラソンは、参加者とともに成長してきたイベントだと思います。参加してくれる人たちへの感謝の気持ちを忘れずに継続していきたいです。

ゲレンデ逆走マラソンが町の名物の一つとなり、さらに猪苗代の魅力を発信していきたい。そのためにも、町民の皆さんにも選手やボランティアで参加いただき、皆さんと一緒に町を盛り上げていきたいです。

第22回ふるさとイベント大賞の表彰式は3月1日、東京都内で行われ、GAMBARUZO!ふくしま実行委員会の「ゲレンデ逆走マラソン」が大賞に次ぐ最優秀賞(総務大臣表彰)を受賞。全国から応募のあった125点から選ばれました。

ふるさとイベント大賞は、一般社団法人地域活性化センター(東京都)が主催し、地域活性化などを目的に全国各地の優れたイベントや祭りを表彰しています。

「ゲレンデ逆走マラソン」は、町内の六つのスキー場が連携し、東日本大震災と原発事故の影響に伴う風評被害の払拭を目的として、平成23年から開催しています。オフシーズンのスキー場を活用し、参加者が文字どおりゲレンデを逆走するユニークなマラソンレースです。フリースタイルスキー世界選手権大会の舞台となった急坂を登るレースや駅伝方式のレースなど、それぞれのスキー場の個性を生かしたレースが展開されています。

同実行委員会の佐藤勇一事務局長と樋口弘明委員は3月5日、町役場を訪れ、前後公町長に受賞を報告しました。佐藤事務局長は「最初のレースは参加者数が30人程度でしたが、2017シーズンは延べ1750人がエントリーしました。新しいアイデアを取り入れながら、ゲレンデ逆走マラソンの魅力を増やしていきたいです」と話しました。